

# マリナーレジャー安全レポート

第3号

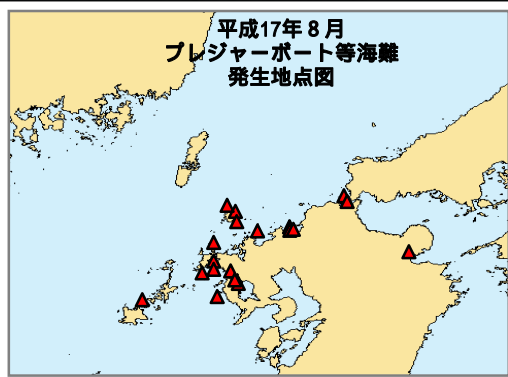
第七管区海上保安本部  
マリナーレジャー安全推進室  
TEL 093-321-2931  
E-mail:kyuunan-7@kaiho.mlit.go.jp

## プレジャーボート(14ト)炎上

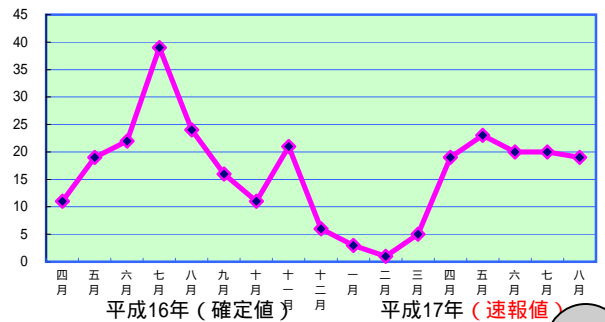
8月3日午後零時頃、博多から壱岐向け航行中のプレジャーボート(6人乗り)機関室から出火。乗員は一時船首部に避難していたが機関室で爆発音。危険を感じた乗船者は海に飛び込み、伴走中の僚船に救助された。(写真)

平成17年8月  
プレジャーボート等  
海難発生隻数

合計	19隻
衝突	3
乗揚	5
転覆	0
浸水	2
推進器障害	0
舵障害	0
機関故障	3
火災	1
爆発	0
行方不明	0
運航阻害	3
安全阻害	2
その他	0



プレジャーボート等海難発生隻数の推移



## 乗揚げ海難が急増！！

4月に急増した海難は、20隻前後の高い水準で推移しています。

6月、7月に多発していた衝突海難が減少する一方で、乗揚げ海難が急増しています。乗揚げ海難の殆どが、航行する海域の航路標識の位置、浅瀬の位置及び水深を把握していなかったことによるものです。

**海の下には何があるのかわかりません！  
しっかりと事前調査を行いましょう！**

## プレジャーボート事事故例とその教訓

### 【事故の概要】

**「船が転覆。私は岸に泳ぎ着いた。あと3人は不明。」** 8月某日の午後零時30分頃、女性からの118番。女性A(36歳)によると、船に4人が乗り、釣り中に浸水、沈没。それぞれがクーラーに掴まり岸に向け泳いだ。私は岸に着き、漁港係留中の遊漁船等に救助を求め電話している。乗っていたのは船長B(男性46歳)、男性C(71歳)、女性D(37歳)とのこと。

通報により、巡視船艇5隻、ヘリ1機、遊漁船が行方不明者の捜索を開始。まもなく遊漁船が海岸に上陸した2名を発見。午後2時頃、ヘリがうつ伏せ状態で漂流中の男性Cを発見。巡視艇が救助し、ヘリで病院に搬送するも死亡が確認された。

調査の結果、午前7時頃、船長が知り合いから漁船(2.5ト)を借りて出港。午前10時前に魚場に着き、生簀の栓を外し釣りを始めた。10時過ぎ、釣れた魚を生簀に入れようとしたところ水位が異常に高く、不審に思って機関室を覗いたところ浸水していた。ポンプで排水するも効果なく、みるみるうちに沈没した。同船はボイドスペースに生簀に通じる水抜き孔があり、生簀の海水がボイドスペースに逆流し、船内に浸水したもので、船を貸した人は、このような構造やライフジャケットの保管場所を船長に伝えていなかった。

### 【事故からの教訓】

#### ライフジャケットの常時着用！

乗船者4人はライフジャケットを着用していませんでした。乗船中は、バランスを崩したり他船との衝突など、何時、海に投げ出されるか分かりません。ライフジャケットは常時着用が基本です。ライフジャケットを着けないと乗せないと言う位の強い態度で臨んで欲しいものです。着用は誰のためでもありません。自分の命を守るためのものです。

#### 早期、118番通報！

乗船者は携帯電話を持っていましたが、浸水を認めてから、何処にも救助は求めていません。浸水から沈没までに118番に一報する時間はあったものと考えられます。死亡した男性は、岸から数十mの位置まで泳いでいるのが確認されており、早期の通報があれば、救助された可能性は極めて高かったと推定されます。

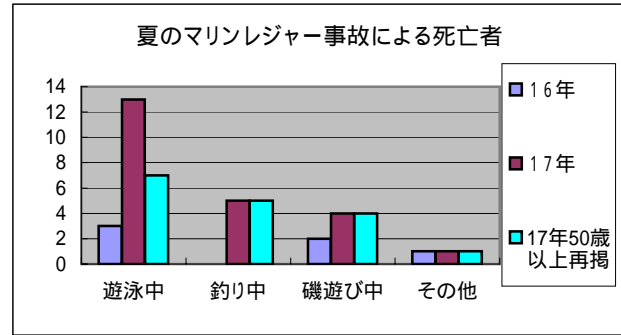
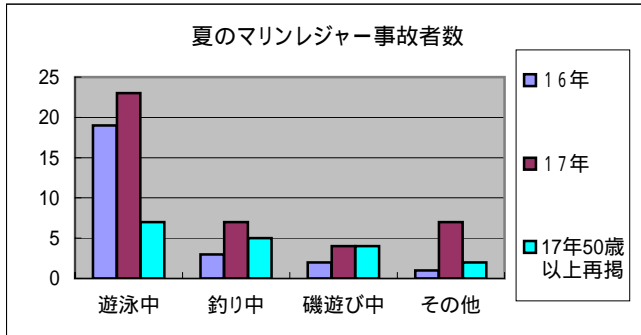
#### 出港前点検の励行！

船長は、自船や乗員の安全を守る責務があり、そのためにも出港に際しては、船体や機関、救命具の搭載等の点検を励行し安全運航に努めてなければなりません。本件に関しては、船を借りる際に、船のコンディションや救命具の所在を聞いておくべきだったでしょう。ちょっとした油断が大きな事故につながります。細心の注意と周到な準備を忘れてはいけません。

# 7・8月のマリレジャー海浜事故激増

七管本部管内（速報値）

7月1日から8月31日の間における当管内でのマリレジャーに伴う**海浜事故者は41人**で、このうち**23人が死亡**しました。レジャーの種類別では、**遊泳中23人（死亡13人）、釣り中7人（死亡5人）、磯遊び中4人（死亡4人）、その他（水上オートバイ乗艇中、遊具上乗中、サーフィン中等）7人（死亡1人）**でした。昨年同時期に比べ事故者は16人増加し、遊泳中、釣り中、水上オートバイ乗船中の事故の増加が目立っています。また、死亡は昨年より15人増加し、遊泳中や釣り中の死亡が大きく増加しました。これら増加の原因として、昨年に比べ期間中に台風の接近もなく好天に恵まれたことが考えられます。また、**50歳以上の比較的高齢者の事故が昨年同時期に比べ大幅に増加（事故者12人増加、死亡15人増加）**しています。



## 海の相談室だより（七管本部海洋情報部）

**9月12日は水路記念日！ 日本が海を調べ始めた日！**

我が国が長い泰平の鎖国から目覚めんとする江戸時代の終わり、既に英国海軍は測量艦アクテオン号、ギングダブ号などを派遣し、1861年までには我が国沿岸の概要を把握しており、長崎、神戸、鳴門海峡など数多くの海図を刊行していました。そこで、国防のみならず、海運のためにも自ら海図を刊行することが不可欠であることを確信した明治政府は、明治4年(1871年)7月28日(旧暦)に海上保安庁海洋情報部の前身になる兵部省海軍部水路局を設置しました。この日が、我が国における海の測量、海洋調査、海図などの航海用出版物刊行の開始となる日であり、新暦でこの日に相当する9月12日を水路記念日としています。創設時の水路局は、勝海舟とともに長崎海軍伝習所で航海と測量を学んだ柳楯悦少佐(当時)を筆頭に数名の職員が東京築地の海軍兵学校寮(後の海軍兵学校)の一室で業務を開始しました。柳少佐は、外国人の助けを借りず、我が国独自の力で翌明治5年には第1号海図(釜石港)を刊行しています。

## マリミニ情報



**若年齢層に対する海浜事故防止指導**

例年、若年齢層（18歳以下）の海浜事故が夏期に集中していることから、七管本部管内海上保安部署において、夏休み前の6・7月を中心に若年齢層を対象にした安全教室の開催や各種行事、各地域でのイベント等機会をとらえて延べ47箇所、約2,500人の小・中学生、幼児等を対象に海浜事故防止のための啓発活動（安全講話、プールでの指導、ライフジャケット着用体験等）を行いました。

今年7・8月の若年齢層の事故は、6人で死亡者はありませんでした。ちなみに、16年は事故者11人（死亡者1人）、15年は事故者18人（死亡2人）でした。（写真は、佐世保で実施した市民や小学生を対象とした着衣泳等の講習風景です。）



### 【航空機からの漂流者視認状況調査】

見つけにくいことを「砂浜で米粒を探すようなもの」とよく表現しますが、航空機で上空から人を捜すことは、正にそのような作業です。右側写真の巡視船の前方には2名の漂流者が分かりますか？

転落・漂流中に発見されるポイントは、浮いていること。

目立つ色のものを着用していること。

漂流物があればそれに掴まること。

等でしょうか。何が言いたいか分かりますか？

そうです、「**ライフジャケットを着用しよう。**」ということです。

